

主権者教育身近題材で

福井・高校教諭向け指導者講習会

155人、有効性と手法学ぶ

県立高校の教員らを対象にした主権者教育の指導者講習会が26日、福井市の県生活学習館で開かれた。県内の38校から155人が参加、生徒会予算を題材に、国政を考える指導法の有効性と具体的手法を学んだ。

主権者教育が選挙の制度説明中心になっていることから、実践的な内容を充実させようと県高校教育課が企画。松下政経塾の研修主担当で若者の政治参加を研究する西野偉彦さんを講師に招いた。西野さんは生徒の政治への



生徒会予算を題材にした主権者教育の手法を説明する西野さん＝26日、福井市の県生活学習館

関心を高めるには「無理に政治的なテーマを扱う必要はない。学校生活の身近な問題から政治は考えられる」と指摘。自らが考案した「生徒会予算

を部活にどう分配するか」「テーマとする手法を解説した。指導法は、より多くの生徒が納得する答えを見つけてい

と考えさせるもの。分配法を①活動実績②部員の数③一律同額の中から選び、模擬投票やグループ討論などを通して、他人の考え方を理解したり、自分の意見を深めたりする。「部活動の予算を国の予算になぞらえて、限られた財源をどう分配するのか考えることは政治そのもの」と話した。鯖江高の中野真澄教諭は「身近なテーマだと生徒も真剣になって考えてくれる。実践しやすい点も良い」と話していた。(杉本拓磨)